

音楽科学習指導案

日 時:令和元年12月20日(金)

場 所:沖縄県立北中城高等学校

対 象:第2学年

授業者:金城 敦子

1 題材名 「箏に触れ和の響きを味わおう」

2 題材の目標

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、イメージや感情を表現するために必要な技能を身に付けるようにする。

【知識及び技能】

(2) 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージや感情を思いや意図をもって前奏を創作するための創意工夫する力を養う。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】

3 題材の評価規準

(1) 知識・技能	(2)思考・判断・表現	(3)主体的に学習に取り組む態度
知 ①「六段の調べ」、「春の海」の曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ②楽器の構造や奏法と音色の特徴との関連について理解している。 技 ①楽器の音色や旋律の特徴と表現上の効果との関わりを、自己のイメージや感情を表現するために必要な技能を身につけている。 ②創意工夫を生かした音楽表現で「さくらさくら」の前奏を創作するために必要な技能を身につけている。	思 ①「さくらさくら」の音色やリズム、旋律、強弱、速度などの音楽を形づくっている要素を知覚するとともに、それらの働きを感受し、自己のイメージや感情を表現するため創意工夫し創作の表現意図をもっている。 ②「さくら変奏曲」、「春の海」、「六段の調べ」から楽器の音色などの特徴と表現上の効果との関わりを感じ取ったり、音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して聴いている。	態 ①和楽器(箏)に親しみ伝統音楽への関心を持ち、演奏したり創作したり鑑賞したりする学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。 ②「さくらさくら」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わい、「六段の調べ」、「春の海」の曲想を生み出している音楽的な特徴などに関心を持ち音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 指導と評価の計画（全二次8時間）

（GS：学習シート）

（WS：ワークシート）

次	時	学習活動	指導上の留意点	□評価観点	評価方法
一	1	・基礎的な技能の習得 ・箏の魅力に触れる。 ・「虫づくし」を使いペアで音の出し方などを確認する。	・箏の扱い方（構え方、爪のはめ方）、構造や歴史、検校についてなど簡単に説明する。 ・材質や自然との関わり、製作工程の職人芸にも注目させ、日本の工芸品としての魅力や箏を扱う心構えを喚起する。 ・平調子で調弦をしておく。	知 技	観察 記述 観察 GS 1
	2	・「さくらさくら」を歌詞で歌う。 ・口唱歌で「さくらさくら」を歌う。 ・「六段の調べ」「かぎやで風節」を鑑賞する。 ・箏で「さくらさくら」を練習する。 1面の箏を2人で使用し口唱歌と箏演奏を交互に行う。（ペア学習）	・歌詞を歌いながらイメージを広げさせる。 ・楽器の音をイメージし口唱歌で歌わせる。 ・「六段の調べ」の唱歌と演奏を聴かせる。 ・ペアで口唱歌と楽器を交互に練習させる。 ・口唱歌は、器楽指導において箏の音色や響き等を知覚・感受しやすくする手だてのため特に評価の見取りは行わない。		観察
	3	・「さくら変奏曲」を鑑賞する。 ・音色の特徴や音楽を形づくっている要素による表現上の効果を聴き取り知覚・感受したことを、ワークシートにまとめる。 ・「さくら」からイメージする事などを個人でワークシートにまとめ、ペアでまとめた事を伝え合い考えを深める。	・音楽を形づくっている要素を意識させる。 ・歌詞や写真、前時イメージしながら歌ったことを振り返り情景や心情を考えさせる。 ・音楽用語が出てこない生徒に対しては、言葉集を示しながら自分の感情やイメージを記入するよう促す。 ・考えたことをお互い伝え合うよう促す。	思	評価の見取り① 観察 記述 WS 1
	4	・「さくらさくら」を口唱歌で歌う。 ・「さくらさくら」の練習をする。 ・ペアで感じたことを伝え合う。	・音色、リズムや箏の響きなどから知覚・感受したことをもとに箏の音色を口唱歌で表して歌うよう促す。 ・口唱歌と箏演奏を交互に取り組ませる。 ・お互いで箏の音色と口唱歌を関連付けて練習するよう促す。		観察 評価の見取り②
二	5	・「春の海」を鑑賞する。 - A-B-Aの構成、箏と尺八との旋律の絡み、テンポ変化などに着目して聴く。 ・文化的・歴史的背景を知り情景をより深く味わって鑑賞する。 ・ワークシートに知覚・感受したことを、まとめる。	・箏と尺八の音色の特徴と音楽を形づくっている要素を感じ取りながら聴かせる。 ・ワークシートにイメージしたことや感じたことを自分の言葉で記入するよう促す。 ・自分の言葉で難しい際には、音楽の言葉集を参考にするよう促す。	知 技	記述 WS 2 評価の見取り③
	6	・自分のイメージや感情に合わせた「桜」をイメージし、イメージと音を結ぶ。 ・「さくらさくら」の前奏を個人で創作する。 ・創作した前奏部分を、メモや図形譜などで、書き記し再現可能なようにする。 - 記譜が難しい際には動画撮影用タブレットで録画する。	・鑑賞で感じ取ったことも生かして自分の表現したい「桜」を言葉と音で表す。（例）花びらが散る→高い音から低い音へ向かう等を感じさせ、音での表現を見取る。 ・桜の写真や楽曲の時代背景から知ったことと自分の生活経験を生かして自分事としてイメージし創作に生かすよう促す。 ・音楽を形づくっている要素（音色、リズム、旋律など）を知覚・感受し、主体的・創造的な音楽表現が出来るよう促す。	知 技	観察・記述 WS 3 評価の見取り④
	7	・創作で個人が作った前奏を披露し合い共有する。 ・ペアで話し合い、一つの作品にまとめる。 ・オリジナルの簡易楽譜（メモなど）や図形譜などを作成する。	・お互いの作品をペアで共有しイメージを伝え合う。 ・お互いで、練り合い一つの作品へ仕上がるよう対話的・協働的活動を促す。楽譜の記譜を、工夫させる。その際、オリジナルの図形譜などでも良いと伝える。	技	観察・記述 WS 4
	8	・ワークシートにペアで作成した桜についての紹介文をまとめ発表。 ・他のペアの作品を鑑賞し感想を記入する。 ・まとめ（自己評価表記入など）。	・ペアで作成した作品を発表する際、どのようにイメージしてどのような桜を前奏で表現していると自分のイメージや感情を言葉と音で伝えられるように促す。 ・本題材の振り返りを行わせる。	思	観察・記述 WS 5 評価の見取り⑤

5 本時の学習内容（7・8／8時間）

(1) 本時の目標

- ①「さくらさくら」に前奏を創作し、ペアでイメージを共有し一つの作品に仕上げる。
- ②前奏付「さくらさくら」を紹介文（イメージを言葉で伝える）とともに発表する。

(2) 本時の展開

	学習目標と学習活動	指導上の留意点	具体的な評価基準と評価方法
導入	・前時のワークシートを振り返る。 ・連想リズムゲームを行う。 ・本時の学習内容を知る。	・前時の復習を行い前回の創作で音楽の諸要素（言葉集）がどのように創作の表現につながったか確認しながら振り返らせる。 ・イメージする力のトレーニングとして取り入れる。	
展開① （第7時）	・10秒即興前奏リレー活動を行う。 ・2人ペアでの活動とし1面の箏を2人で共有する方法を示す。	・即興的な演奏を試してみることで表現の幅を広げ自由な発想を引き出す。 ・1人がトレモロ、1人がメロディーなど例を示す。（連弾）	・伝統音楽（箏）の特徴に関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。（観察） ・音楽を形づくっている諸要素を絡め創作活動に取り組もうとしている。
	学習活動：個人でイメージした前奏を、ペアで情報交換し合い、「私のイメージした、桜は、○○○で、○○○と表現しました。」とお互い伝え合う。そこで、お互いの良さを共有しあい、何故、このように表現したかを伝え合いペアで1つの作品に仕上げよう。		
	・お互いのイメージを共有した後ペアで表現する「さくら」のタイトルを二人で練り合い一つのタイトルを付ける。 ・ペアで知覚・感受したことや、気づいたことなどを共有する。	・情景を思い浮かべながら、ペアでイメージした情景をお互い言葉で伝え合いながらイメージに近い音を選び言葉と音を結びつけていくよう促す。 ・発表に向けて、何故このような表現を行ったのかを相手に伝えるように言葉と音で表現するよう促す	・意欲的に創作活動に取り組んでいる。（記述WS4・観察）
展開② （第8時）	・ペアで「さくらさくら」前奏付きを発表する。 例「タイトルは、『川のせせらぎと小鳥のさえずる桜』です。前奏は、川の水の流れる音と小鳥が桜の木からさえずる姿をイメージしました。 ・発表を聴いて、コメント表に、良かった点や感想（知覚・感受したこと）を記入する。	学習目標： 前奏付「さくらさくら」を紹介文とともに発表しよう ・タイトルとイメージの表現を言葉で伝えて演奏発表を行うよう促す。 ・他のペアの演奏を聴いて、良かった点や知覚・感受した感想などを音楽の諸要素を用いてコメント表に記入するよう促す。	・伝統音楽（箏）の特徴に関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。（観察） ・意欲的に発表活動に取り組んでいる。（観察） ・音楽を形づくっている諸要素を言葉と音に結び付け考えることが出来る。（記述WS5）
まとめ	・本時の学習を振り返るワークシート自己評価を記入する。 ・本単元の学習を振り返る。	・本時の授業の自己評価をワークシートに記入する。	